タイトル ：（論文の標題）

著者名 ：（日本語表記の著者名．複数名の場合は「・（全角中点）」で区切る．著者所属・住所が複数の場合，著者名の右肩に該当する番号を割振ってください．）［例：加藤　将1)・山ノ内崇志2)・志賀　隆2), 3) ］

英文タイトル ：（未記入の場合は投稿後に編集者から提案します．）

英文著者名 ：（英語表記の著者名．複数名の場合は「, （半角カンマと半角スペース）」で区切る．未記入の場合は投稿後に編集者から指示します．）

著者の所属・住所 ：（著者の所属機関、所在住所．複数名で所属・住所が分かれる場合，著者名右肩に割振った番号と対応させて記述してください．）

著者のメールアドレス ：（代表著者のメールアドレス．）

欄外表題 ：（ページ上部に表示される短縮タイトル．ランニングタイトル．20字以内．）

図の数 ：（図の数に加えてカラー掲載希望の図についても記述して下さい．）［例：2（カラー：1）］

表の数 ：（表の数．）

掲載カテゴリー ：（希望する掲載カテゴリーを「論文」「短報」「総説」「資料」「報告」「意見」「書評」「その他」から選んで記述して下さい．）

別刷希望数 ：（50部単位で記述して下さい．有料です（[リンク：別刷り料金](http://mizukusakenjp.sakura.ne.jp/dmo69416/reprint)）．不要の場合は「0」とご記入ください．PDFは全ての著者に無料でお渡しします．）

**英文要旨**（Abstract）**：**

（※必要な場合．概ね200単語以内．）

（次ページより本文のテンプレート．）

**はじめに**

（本文．句読点は「，」と「．」を使用してください（いずれも全角）．約1600字で本誌1ページに相当します．論文以外のカテゴリーで投稿される場合，「はじめに」「材料と方法」「結果」「考察」の見出しを立てる必要は必ずしもありません．）

（文献の引用は著者名と年号を明記してください．著者名と年号の間は，日本語文献では全角カンマ，英語文献では半角カンマと半角スペースを入れてください．［例：「三木（1937）は・・・・」，「志賀・加藤（2022）は・・・・」，「・・・である（Kato et al., 2014）．」，］

（文献と文献の間はセミコロン（全角）を入れてください．）［例：「・・・が知られている（Smits et al., 1988；荒巻ほか，1989；Nakamura & Kadono, 1998；山ノ内・石川，2011）」］

**材料と方法**

（本文．以下，結果・考察ともに必要に応じて副見出をつけて構いません．）

１．副題（必要であれば加えて下さい）

（本文）

２．副題（必要であれば加えて下さい）

（本文）

結果

（本文）

考察

（本文）

証拠標本（※必要な場合）

（本文．種の名前，種の学名，採集場所，採集日，採集者，採集番号，収蔵先の順番に記述して下さい．希少種など産地の公開に問題がある場合は，市町村名や都道府県名までの表記でも構いません．）

例：

ミズドクサ *Equisetum fluviatile* L.; 久種湖南部抽水植物帯, July 24, 2022, *K. Shutoh et al.* 5226 (SAPS065715, SMAC12459); 大備川 [流入], July 24, 2022, *K. Shutoh et al. 5227* (SAPS065716, SMAC12475).

アマゾントチカガミ *Limnobium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine: 新潟県新潟市松浜, Nov. 11, 2014, T. Shiga 8465 (OSA234598); 熊本県熊本市江津湖, Sep. 5, 2021., *S. Kato s. n.* (NGU11988).

謝辞（※必要な場合）

（本文）

引用文献

（第一著者のfirst name（苗字）のアルファベット順・発行年順に配列すること．各項目を区切るカンマ・コロン・ピリオドは日本語文献では全角，英語文献では半角とし直後に半角スペースを入れてください．下記の例のほか，詳しくは投稿規定（[リンク](http://mizukusakenjp.sakura.ne.jp/Submission/WPSJ_contribution_rule2021.pdf)）をご覧ください．）

【例：雑誌の場合】

藤井俊夫・鈴木　武・麻生　泉・瀧華佐知子・高島貴聖・小野　一，1999．兵庫県三田市における絶滅危惧植物オグラコウホネ（スイレン科）の分布，生育環境と形態．人と自然 10：41-48．

山ノ内崇志・白土智子・中川宏記，2022．2020年時点における10河川でのカワゴケソウ科植物の生育地状況．水草研究会誌 (113)：1-12．

荒巻　稔・土谷岳令・岩城英夫，1989．霞ヶ浦高浜入におけるコウホネ沈水葉の光合成特性．日本生態学会誌 39：189-193．

Kadono, Y., 1980. Photosynthetic carbon sources in some Potamogeton species. Botanical Magazine, Tokyo 93 (3): 185-194.

Piquot, Y., D. Petit, M. Valero, J. Cuguen, P. de Laguerie and P. Vernet, 1998. Variation in sexual and asexual reproduction among young and old populations of the perennial macrophyte *Sparganium erectum*. Oikos 82(1): 139-148.

【例：単行本・報告書の場合】

角野康郎，1994．日本水草図鑑．文一総合出版．

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2015．レッドデータブック2014 ―日本の絶滅のおそれのある野生生物― 9植物II（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）．ぎょうせい．

Les, D. H., 2018. Aquatic Dicotyledons of North America: Ecology, Life History and Systematics. CRC Press.

IUCN, 2020. IUCN Red List 2017-2020 report. IUCN.

【例：単行本・報告書の一部の場合】

角野康郎，1991．滋賀県の水生植物．『滋賀県自然誌総合学術調査報告』（滋賀県自然誌編集委員会編）pp.1275-1294，滋賀県自然保護財団．

志賀　隆，2015．スイレン科．『改訂新版日本の野生植物 1』（大橋広好・門田裕一・邑田　仁・米倉浩司編）pp.46­48，平凡社．

Weeden, N. F. and J. F. Wendel, 1989. Genetics of plant isozymes. In: Soltis, D. E. and P. S. Soltis (eds.), Isozymes in Plant Biology. pp.46-72, Dioscorides Press.

Lewis, D. Q., R. K. Rabeler, C. C. Freeman and W. J. Elisens, 2019. Linderniaceae. In: Flora of North America Editorial Committee (eds.), Flora of North America 17. pp.352-359, Oxford University Press.

【例：ウェブサイトの場合】

環境省・農林水産省・国土交通省，2015．外来種被害防止行動計画～生物多様性条約・愛知目標の達成に向けて～．（https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/actionplan/actionplan.pdf，2021年10月6日確認）．

表1（※表がある場合のみ．表のキャプションと表そのものを貼り付けて下さい．Excel等のソフトのファイルを別に投稿いただいても構いません．）

図の説明（※図がある場合のみ）

図1．（図の説明文）

図2．（図の説明文）